

令和6年度地方における孤独・孤立対策推進事業交付金 事業実施報告書

【事業内容】

●孤独・孤立対策関連事業の実施

1. 事業の概要

対人援助従事者や孤独・孤立問題に関心のある方等を参集してプラットフォームを立ち上げ、孤独・孤立の課題について、情報共有や情報交換を行うとともに、業種や職種を越えた協力関係の構築を目的としたワークショップを実施した。

(1) 日時

令和7年2月19日（水）10：00～12：00

(2) 場所

青森県観光物産館アスパム 4階 会議室「十和田」

(3) 内容

①趣旨説明

②基調講演（内閣府孤独・孤立対策推進室 孤独・孤立対策推進参与 大西氏）

孤独・孤立とは何か、何が問題となるのか等、基礎的な内容を学ぶもの。

③ワークショップ（KAKECOMI 代表 鴻巣氏）

バウンダリー（自分と他者の境界線）について学び、参加者同士で、孤独・孤立の問題に対しできることを話してもらい、孤独・孤立対策について、当事者の目線に立った支援や他職種の相互理解が必要であることを実感してもらうもの。

(4) 参加人数

27名

(5) 当日の様子

- ・基調講演



・グループワーク



2. 事業実施の経緯・背景及び目的

本県では、令和4年度に、地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業の採択を受け、支援機関向けのアンケート調査、孤独・孤立の問題意識の共有を図るための勉強会を実施したほか、支援機関がつながる場であるプラットフォームの設立準備会を開催し、プラットフォームの在り方について様々な分野の支援団体から意見を聴取した。

令和5年度には、アンケートで多く寄せられた「関係団体のネットワーク構築が必要」との回答や、プラットフォーム設立準備会で得られた設置形態についての意見等をもとに検討を重ね、県内の多様な団体が分野横断的な関係を構築することで連携を促進する交流会をプラットフォームと位置付けることとした。

上記を踏まえた上で、広域的な支援者同士の繋がり強化に取り組むため、令和7年2月19日に青森県孤独・孤立対策推進プラットフォームを立ち上げたものである。

3. 事業の成果及び工夫した点

(1) 事業の成果

高齢や障害分野の事業所、社会福祉士会や介護支援専門員協会等の職能団体、NPO 法人、一般企業、大学、一般県民、教育委員会、行政職員等が参加し、孤独・孤立に対する問題意識を共有するとともに、孤独・孤立対策について考える機会を創出することができた。

参加者からは、普段関わりが少ない分野だったので良い機会となった、次年度以降も

実施するのであれば関心のある人を連れてきたいといった感想があり、孤独・孤立の支援のネットワークの拡大につながっている。

(2) 工夫した点

多様な団体が参加するよう、地域づくり、教育、警察等、普段のやりとりがない分野にも周知を行った。

内容についても、基調講演において孤独・孤立とは何かを学び考える基盤を作ったあと、グループワークで意見交換を行うものとした。

4. 事業の課題と次年度に向けての展望

(1) 事業の課題

- ①多様な団体に参加してもらったものの、まだ局所的なつながりに留まっている。
- ②本来、個々のケースに対応する市町村の参加者数が非常に少なく、地域での具体的な取組に発展していない。

(2) 次年度に向けての展望

- ①プラットフォームとしての多職種連携に資する交流会を継続的に実施していく。
- ②孤独・孤立対策の趣旨を市町村へ伝え、プラットフォームへの参加を促していく。